

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」阪急桂駅前校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2025年 1月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数) 40名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 25日		～ 2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人のニーズにあわせ 個別支援でオーダーメイドの療育を行っている	担当制を取り 信頼関係を築いて安心して過ごせる環境を提供している	コミュニケーションの幅を広げるため 担当以外の職員との関わりも増やしていく
2	毎回のフィードバックで保護者の声も十分に伺っている 子育てをサポートするため 支援の内容を見て頂きながら相談援助を行っている	担当が休みや不在時でも相談できる環境を提供できるよう 職員全体で挨拶やお声がけを行って関係性を構築している	レスパイトの意味も併せて 家族支援を定期的に行い より深くお話を伺っていく
3	コミュニケーションやSSTをメインにしながら 学習に特化した支援も行っている	塾が母体である強みを活かして 学年や能力に合わせた教材の充実を図っている	学校との連携も図り より一人一人に寄り添った支援を行っていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動課題に必要なスペースに限りがある 受け入れられる人数の制限がある	運動ができる支援スペースが少ない 利用時間帯の集中でよりスペースの確保が難しい	スペース確保のため課題によって支援室を調整する 利用時間・曜日などを調整する事で受け入れ枠を広げる
2	専門知識の獲得 専門分野での支援	自己研鑽が必要と考えられる 専門職の拡充が必要と考えられる	内・外部研修に積極的に参加し自己研鑽に励む 専門分野を広げて知識を獲得する
3	地域への貢献	地域交流の偏り	曜日・時間固定で事業所の無料開放を始め 受給者証の有無に関わらず 広く療育を知って頂ける機会を提供していく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」阪急桂駅前校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 43

回収数 40

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	34	6	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	40	0	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	33	6	0	1	隣の部屋との仕切りがパーテーションだけのところがあり 支援中も隣のお子さんの声が大い時に 先生の声が聞き取り辛く 子供が気になる様子	出来得る限り最大限の配慮で調整・対応できるよう努めていく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	38	2	0	0		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	38	2	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	38	1	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	40	0	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	39	0	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	36	3	0	1	基本的に目標が継続しているので固定化している	必要に応じて継続しながらも固定化にならないよう 目標の設定を行っていく
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	11	13	7	保護者が不要と思っています 事業所としてはない 不要です	児童館など情報共有の機会はあるので必要に応じて子供たちの交流の機会も企画していく
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	39	1	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	40	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25	5	3	7		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	37	2	0	1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	38	1	0	1	専門的な知識を持った人が居れば心強いのではないかと思います	職員のスキルアップや専門知識の向上を図っていく
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	40	0	0	0		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	9	9	12	知らないだけかもしれませんが設けられても参加の予定はありません 不要です	必要に応じて適宜開催できるよう企画していく	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	6	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37	3	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	23	8	1	8		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37	1	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	5	0	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	7	1	15		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	6	0	6		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	29	3	0	8	事故はないので	事故の無いよう努めると共に発生時の迅速・丁寧な対応を心掛けていく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	40	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	7	0	0	学校が無い日＝療育という意識ができています	楽しみにして通所頂けるよう努めていく
	29	事業所の支援に満足していますか。	37	3	0	0	専門的な知識や情報 アドバイスがもっと欲しいです 保護者への支援は満足	ご要望にお応えできるよう 職員のスキルアップや専門知識の向上を継続的に図っていく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースの確保はしている	運動課題が必要なお子様など調整が必要	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切な人数を確保して配置している	退職・移動などの際にも隙間なく配置が必要	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		フルフラットな床面でバリアフリー対応をしている	机の角など危険な個所への配慮が必要	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空気清浄機や加湿器など心地よく過ごせる配慮をしている	定期的にエアコンなどの掃除が必要 運動遊びをするには少し狭い	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個々にあった環境を提供できるよう配慮している	運動をしたい子が部屋が空いておらず我慢してくれている事がある	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルの本格導入に至っていないが 全体で日々協議を重ね業務の改善に努めている	継続していく事が必要である	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		必要に応じ評価アンケートを行い保護者のニーズ確認と業務改善に努めている	継続していく事が必要である	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		適宜1on1などの機会を設けている	定期的に行う必要がある	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		現在は利用者・事業所の二者評価となっている 今後必要に応じ第三者による外部評価については引き続き検討していく	必要に応じて対応していく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に研修は行われている 初任者研修や全職員対象の定例研修を実施しており 行政等外部の研修にも積極参加している	継続していく事が必要である	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		今年度から行っている	継続していく事が必要である	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的にアセスメントを行い保護者からのヒアリングに基づきサービス計画を作成している	チェック表などで漏れなく確認していく	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議を開催し記録を残している	チェック表などで漏れなく確認していく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当者会議を開催し記録を残している	担当にしか伝わっていない事がある	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		定期的にアセスメントシートを使用している 日々の記録も共有している	チェック表などで漏れなく確認していく	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		五領域も網羅し定期的に見直しもしている 目標と具体的な支援内容を設定している	「地域支援・地域連携」は現在設定していない	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		基本的には担当指導員が立案しているが共有作業などはしている。全社的なノウハウの蓄積システム「支援の工夫集」も整備している	毎回チームでは行ってはいない
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		一人一人のニーズにあわせオーダーメイドの療育を行っている。毎回のフィードバックで保護者の声も十分に伺っている	長期で利用している人は固定しがちではある
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動により支援計画を作成しているが小集団療育も行っており考慮している	放デイの集団は定期的には行ってはいない
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	○	個別内容に応じて行っている担当制であるため必ずではないが 変更があれば都度行っている	毎回チームでは行ってはいない
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		個別内容に応じて行っている担当制であるため必ずではないが 変更があれば都度行っている	毎回チームでは行ってはいない
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		社内の統一書式で毎回記録をとり支援に生かしている	請求時などに抜けが無いように確認している
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		計画期間（6か月）ごとに「レクサ」を実施しそれに基づきサービス計画を見直している	チェック表などで漏れなく確認していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		意識して支援は行っている	徹底できるよう努めていく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		個々にあった支援を提供できるよう配慮している	目標として取り入れるなど 全員に行えるよう努めていく
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当指導員や児童発達支援管理責任者が参加している	提案なども含め積極的に参画していく
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて適宜対応している	提案なども含め積極的に参画していく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎がないため日常的なスケジュール調整は行っていないが 必要に応じ保護者の了解を得て支援に関する情報共有を図っている	提案なども含め積極的に参画していく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者の要望と園側の了承があれば連携を取っていく	提案なども含め積極的に参画していく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		該当するケースがあれば保護者の了解を頂いたうえ情報提供を行う	提案なども含め積極的に参画していく
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて適宜対応している	日ごろから積極的な連携に努めていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	○	現在は交流できていないが 多様な意見があることから保護者の希望を十分に伺い交流の在り方を検討していく	児童館など情報共有の機会があるので必要に応じて子供たちの交流の機会も企画していく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		行政区や学区の協議会に参加している	積極的な参加を行っていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		フィードバックの際に保護者のお声をしっかり伺い 課題等に関する情報を共有し支援に生かしていく	家族支援も含め積極的に共有していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		不定期ではあるが行っている 今後回数も増やしていきたい	必要に応じて積極的に行っていく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明するほか 事業所に運営規程等を掲示している 利用者負担等は毎月の請求時に説明している	変更等も即時お伝えしていく

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的にモニタリングを行っている	チェック表などで漏れなく確認していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		対面で説明を行い同意を得ている	チェック表などで漏れなく確認していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援としてやフィードバック時などに必要に応じて保護者の子育ての悩み等の相談に応じている	提案なども含め積極的に行っていく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	小集団療育などを通じて保護者相互の情報共有や連携促進に努めていく 兄弟利用の際には交流できるようにしている	現行は行っていないが 必要に応じて機会を設けていく
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		管理者が苦情相談窓口になり 苦情等があれば迅速・適切に対応している	行政等の苦情窓口も案内している
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログを随時更新するほか 必要に応じ保護者へのお知らせを配布している	定期的に発信していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		パスワードの設定・鍵付き書庫やシュレツターを利用 職員研修等により個人情報の保護に留意している	支援時の事務スペースでの取り扱いにも十分配慮していく
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性に応じてアプローチを工夫している	職員間の共通意識も徹底していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	個別療育であり個人情報保護の制約もあるが自治会にも加入しており地域交流の手法等を検討していく	毎週曜日・時間を固定して無料開放している
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、それに基づく対応に努めている	職員等への周知も徹底していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し 定期的に避難訓練も行っている	時間帯の関係でお子様の参加が難しい事がある
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		見学时にフェイスシートを記入いただき確認している	アセスメント時など定期的に再確認していく
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供はしていない	清掃時などに職員の食事などにも配慮して対応していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		計画を作成した上で研修などを定期的に行っている	継続して行い記録の保管と共有を行っていく
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		重要事項説明書へ記載し 周知している	情報共有の上 連携を図っていく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例発生の場合は上司への報告 職場での情報共有を行い 再発防止に向けて社内でも度々共有している	事故を防ぐ意味でも しっかりと事例を上げていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に内部研修を実施し行政等の外部の研修にも参加している	委員会を設置し定期開催していく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		マニュアルを策定し研修を実施している やむを得ず身体拘束の必要が生じうるお子さまについては 保護者のご理解を得たうえ個別支援計画に明記している	委員会を設置し定期開催していく	